

新規需要創出活動計画書 (記入例)

活動の内容	
水素供給設備名称	名称： ○○ 水素ステーション 住所： 〒XXX-YYYY ○○県△△市□□町○丁目△番□号 運用場所住所： (1) 〒XX0-YY00 ○○県△△市□□町○丁目△番□号 (2) 〒VVV-WWWW ●●県▲▲市■□町▲丁目△番□号 [移動式の場合：定期的(1日/週以上)に運用する場所]
補助金交付決定番号 ①	—水素— 第 2XXXX 号 (※ 水素供給設備が、整備補助金を受けた場合のみ記入)
水素供給設備仕様	供給方式： オンサイト方式 水素供給能力： 300 Nm ³ /h 以上 運用場所数(移動式の場合)： 箇所
申請者	名称： ○○株式会社 住所： 〒VVV-WWWW ●●県▲▲市■□町●丁目▲番■号
運用者 (運用を委託する場合)	名称： ○○株式会社 住所： 〒VV1-WW11 ●○県▲▲市■□町●丁目▲番■号
運用開始(予定)日 ②	平成○○年○○月○○日 (○○○日間)
水素供給設備の従業員数	◇名 (うち臨時雇用員 ▽名)
運用方法 ③	営業日： 日曜、祝日を除く毎日 営業時間： 9:00 ~ 21:00 水素販売価格： 1,000 円/kg (消費税抜き) 会員制/現金の取り扱い： 何れも有り 燃料の仕入先： ▽▽株式会社 ○○製造所 (住所：○○県▽▽市◇◇町○丁目○番地○号) 特記事項： 法定点検時 (年1回 ○○年○○月予定) は休業
定期点検・保守計画	法定点検： 年1回 ○○年○○月予定 日常点検： ○回/日 保守計画： ○月▽▽▽、◇月△△△、・・・ 水素品質管理方法： 定期点検等のお客様への周知方法 (代替措置のご案内)：

① 水素供給設備交付決定番号
水素供給設備整備事業費補助金を受けて設置された設備を用いる場合

② 補助対象期間中に予定している営業日数。

③ 当該ステーション特有と考えられる運用形態あるいは営業上の事由等がありましたら、それらを記載すること。

水素供給設備の利用見込み		現在 (申請時)	当該年度末 (H27年度末)	翌年度 (H28年度末)	翌々年度末 (H29年度末)
	対象燃料電池 自動車台数	〇〇台	〇〇台	〇〇台	〇〇台
	月平均利用台数	〇〇台/月	〇〇台/月	〇〇台/月	〇〇台/月
新規需要創出活動の内容 (水素ステーションの利便性確保、広報・需要喚起活動、自立化に向けた情報収集など)	<p>・FCVの利便性確保に資する活動として、日曜、祝日を除く毎日(年間〇〇〇日)を営業日とし、〇:〇〇~〇〇:〇〇を営業時間として運用を行い.....、ユーザーが不便を感じることなく、燃料補給ができる運用方法をユーザーの声を踏まえつつ確保する。</p> <p>・広報活動として◆〇〇〇、◆△△△△、◆□□□、◆▽▽▽.....、月〇回実施する予定。</p> <p>・ユーザーの利便性確保の検討に資するデータ(リアルタイムの営業情報、STトラブル情報、定期点検日数や点検内容、ユーザーの声の収集)の提示と改善策の検討。</p>				
新規需要創出活動により期待される効果	<p>・今後建設予定の〇〇水素ステーションの運営方法への反映、およびそれに伴うFCVユーザーの拡大、.....。</p> <p>・また.....、</p> <p>・これらのことから.....、</p> <p>.....効果が期待される。</p>				

④ 当該ステーションの事業計画より、数字を記載すること。

⑤ 新規需要創出活動は、以下のものとする。

- ・FCVユーザーの利便性確保に資する活動、新規需要創出だけではなくユーザー視点の利便性確保。
 - ◆運用方法(日曜、祝日を除く毎日(年間〇〇〇日)を営業日とする)
 - ◆定期点検時の案内や代替措置
 - ◆その他、STトラブル時に速やかなユーザーへの案内や代替案の提示等を含む。
- ・潜在的FCVユーザーへの広報活動や、水素ステーションの社会受容性、認知度の向上に資する活動。
 - ◆試乗会の実施 ◆独自イベント開催 ◆関連イベントへの参加
 - ◆クーポン・チラシ配布 ◆利用者ノベルティ配布 等
- ・効率的な水素ステーションの整備や運営に資する情報の収集。
 - ※運営記録(運営日及び運営時間・充填回数・水素充填量等・利用者の声)を、センター指定の書式により記入し実績報告書提出時に提出すること。

⑦ 実施予定の新規需要創出活動により期待される効果あるいは効用を記載すること。

補助対象経費内容(様式1付表1の詳細)				
	項目内訳(例)	経費内容	金額(概算)税抜	
新規需要創出活動費	1	人件費	<ul style="list-style-type: none"> • @3,700×8h×200日=5,920,000 • @5,050×8h×200日=8,080,000 	14,000,000 ⑨
	2	修繕費	<ul style="list-style-type: none"> • 定期点検費用 @〇〇,〇〇〇×〇ヶ回分 • 水素供給設備 @〇〇,〇〇〇×〇ヶ回分 • パソコン保守料 @〇〇,〇〇〇×〇ヶ月分 • その他 	10,000,000 ⑩
	3	警備費	〇〇〇〇〇〇の警備費用 @〇〇〇,〇〇〇×〇ヶ月分	1,200,000 ⑪
	4	水道光熱費	<ul style="list-style-type: none"> • 電気料 使用用途 @〇〇,〇〇〇×〇ヶ月分 • 水道料 使用用途 @〇〇,〇〇〇×〇ヶ月分 	7,000,000
	5	通信費	<ul style="list-style-type: none"> • 固定電話代 @〇〇,〇〇〇×〇ヶ月分 • インターネット回線使用料 @〇〇,〇〇〇×〇ヶ月分 	120,000
	6	備品費	<ul style="list-style-type: none"> • 〇〇使用の為 〇〇〇〇 購入 • 〇〇使用の為 〇〇〇〇 購入 他 	400,000
	7	消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> • 〇〇使用の為 〇〇〇〇 購入 • 〇〇使用の為 〇〇〇〇 購入 他 	500,000
	8	賃借料	<ul style="list-style-type: none"> • POS システム利用料 等 @〇〇〇,〇〇〇×〇ヶ月分 	1,000,000 ⑭
	9	印刷費	<ul style="list-style-type: none"> • ステーションPR用パンフレット 〇〇〇部×@〇〇〇 	100,000 ⑮
	10	業務委託費		⑯
	11	外注費	<ul style="list-style-type: none"> • 水素供給設備への原料水素の輸送費 @〇〇〇,〇〇〇×〇〇回分 	1,200,000 ⑰
	12	保険料	<ul style="list-style-type: none"> • 火災保険料 @〇〇〇,〇〇〇×〇〇ヶ月分 	1,000,000 ⑱
	13	その他	(その他 燃料電池自動車の需要を創出する為に必要な費用)	0
活動費小計			36,520,000	
管理費	14	一般管理費	0	
	15	諸経費	0	
管理費小計			0	
合計(概算)			36,520,000	

⑧ 申請時には概算で計上し、実績報告書提出時には以下の各項目の内容を熟読し計上する。
『補助事業事務処理マニュアル』(経済産業省大臣官房会計課) (金額は円単位)

⑨ 申請時には概算にて計上し、実績報告書提出時には以下のように計上する。
「補助事業事務処理マニュアル 人件費 参照」
労務費単価 × 従事時間
・ 労務費単価の確認は「等級単価一覧表」(経済産業省)を参照すること。
・ 新規需要創出活動に携わった従事時間を示すものとして従事日誌を添付すること。

⑩ 新規需要創出活動に供されている固定資産の修理、通常の維持管理に係る経費。設備補修費、定期点検費、性能評価費、パソコン保守料など保守契約料、建物などの維持管理のための保守料等
※なお、設備ごとに初期トラブルに伴う費用とその他の違いを把握できるように記載すること。

⑪ 水素供給設備の警備業務に係る経費であること。

⑫ 補助対象経費として分離した経費(補助対象外の経費は含めない)であること。
子メーター設置等の分離計上方法をセンターに相談すること。

⑬ 備品費は、事業を行う為に必要な1年以上継続使用できるもの。
消耗品費は、備品費に属さないもの(共に当該事業のみの使用であることが切り分け出来る)経費であること。

⑭ POS システム、PC/ソフト、事務機器/什器等の賃借・リース料等の経費であること。

⑮ 新規需要創出活動で使用する広報用資料等の印刷に係る経費であること。
パンフレット、リーフレット等

⑯ 他の事業者に委任して行わせる経費(委任契約・準委任契約)であること。
積算方法 人件費項目 ⑨ 参照

⑰ 他の事業者を外注する際に掛かった経費(請負契約)であること。

⑱ 火災保険・損害保険等の経費であること。

新規需要創出活動に係る人員計画書 (記入例)

当該設備の運用に係る従事者

氏名	年齢	勤続年数	年間給与(千円)	備考
運用 太郎	〇〇	4	〇,〇〇〇	〇〇〇資格保有等
運用 一郎	〇〇	3	〇,〇〇〇	〇〇〇資格保有等

⑱ 様式1付表1補助対象経費の「1 人件費」にて積算している従事者の情報を記入すること。